

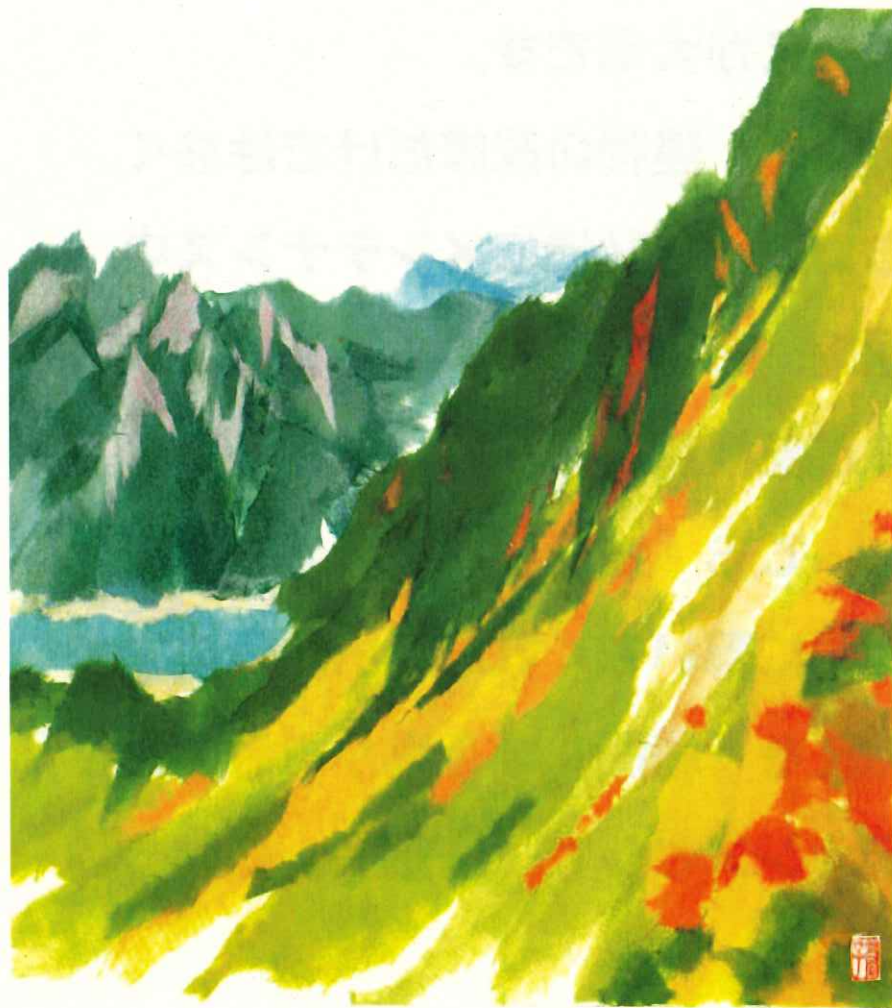


SENSHOJI  
2021 YUKARI NEWSLETTER  
since 1994

ゆかり通信  
VOL. 284  
令和 3 年 9 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竇山 千正寺  
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883  
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2021年千正寺カレンダー 9月の言葉



養  
お  
お  
う  
！  
お  
か  
げ  
さ  
ま  
が  
見  
え  
る  
目  
と  
。

私を支えて下さる目には見えない気づけないはたらき「かげ」に、敬いのことば「お」と「様」をつけて「おかげさま」。この言葉につながり合い支えられているのちであることを教えていただきます。

我が家は、今子育て真っ最中です。長女は高校2年、長男は中学3年、次女は小学3年生で、妻は娘のお弁当作りがあり毎朝5時起き。土日は息子の野球の応援など子供たちを中心に生活しています。仕事に家事と追われる妻の姿を見て私もたまに手伝いをしますが、子ども達はどこ吹く風。好き勝手に過ごしています。そんな子ども達の姿を見て、私もそうだったなあと感じています。

学生時代、朝起きると朝食とお弁当があり、学校から帰ってくると夕食と洗濯された服がある。そんな生活があたりまえとっていました。今は子育てを経験し親が私にしてくれたことに感謝を感じていますが、当時は全てがあたりまえ、感謝の気持ちは一切ありませんでした。あたりまえという生活の中には感謝の気持ちはうまれてこないのではないのでしょうか。

あたりまえの反対は「有難い」、「有ること難し」。「ありがとう」の語源の言葉です。仏教では私たちが今存在していること自体、有難いことだと教えてくださいます。あたりまえではない有難い今を生きている。阿弥陀様のみ光に照らされながら「ありがとう」と感謝の生活の中におかげさまが見える目も養われるのではないのでしょうか。

(文：鹿谷賢純法務員)